

青枯れ病	根及び茎の導管部がおかされる。茎を縦に切断すると、導管が褐変している。
◎ 軟腐病	茎の地際部が暗緑色、水浸状になり、急激に黒変軟化し、茎葉は地表に伏して軟化腐敗する。 塊根も軟化腐敗し、特異的な腐敗臭を放つ。
◎ウドンコ病	葉と茎に白粉状のカビが生じ、やがて全体に広がる。
立ち枯れ病	地際の茎が黒変し、軟化してくびれ、地上部は枯死する。 排水不良地で発生しやすい。
配色かび病	茎葉が溶けるように腐り、さらに病気が進行すると灰色のカビに覆われます。花も褐色になり腐り、灰色のカビに覆われます。
菌核病	かび病に似た症状ですが病状が進みますとネズミの糞に似た菌核が形成され、これが地上に落ち3年位は生き続け時期に再発生します

②ダリアの害虫(◎特に注意)

害虫名	形態・症状
◎ハダニ	7月から8月にかけて高温・乾燥が続くと発生する。生長点付近の新芽や蕾に寄生するので、その付近の葉が硬化し小さく奇形が多くなる。蕾に寄生すると開花できなくなったり奇形花になる。
フキノメイガ	卵から孵化した幼虫が、葉柄の基部から茎内に食入し、加害する。食入部から病原菌が侵入し、腐敗・枯死する原因になる。
◎ネキリムシ	地上に芽を出したばかりの新芽を、夜間地上部に出て食害する。
アブラムシ	茎葉を吸汁加害する。また、モザイクウィルスを媒介する。

③ 防除方法

防除時期	対象病虫害	防除方法	備考
植え付け時	アブラムシ類、アザミウマ類、ヨトウムシ類	オルトラン粒剤一つまみを植え付け後に散布	
植え付け時	ネキリムシ	ネキリエースを株元に一つまみ散布	

発芽期 ～ 生育期	菌核病	殺菌剤 トップジンM水和剤	
	アブラムシ類	ベストガード粒剤を株元に一つまみ散布	

7月上旬 ～ 中旬 (開花前)	菌核病	殺菌剤 トップジンM	梅雨明け期、梅の気温上昇時、特に注意
	アオムシ、アザミウマ類	殺虫剤 スミチオン乳剤	
	ハダニ類	殺ダニ剤 ニッソラン水和剤	